

令和6年度開講「演習ⅠA・ⅠB」一覧

※曜日・時限は予定ですので、変更になる場合があります。

科目名		担当者	曜日	時限	テーマ
上代	日本文学演習ⅠA・ⅠB	土佐 秀里	木	4	万葉びとの恋
	日本文学演習ⅠA・ⅠB	谷口 雅博	木	3	『古事記』の神話を読む
中古	日本文学演習ⅠA・ⅠB	斎藤 菜穂子	火	1	『蜻蛉日記』を読む――和歌と散文との関係を中心に――
	日本文学演習ⅠA・ⅠB	竹内 正彦	金	5	『源氏物語』「若紫」巻を読む
中世	日本文学演習ⅠA・ⅠB	野中 哲照	火	3	『平家物語』の鹿の谷事件譚（たん）を読む
	日本文学演習ⅠA・ⅠB	岩崎 雅彦	木	3	御伽草子の研究
近世	日本文学演習ⅠA・ⅠB	清登 典子	金	4	古典詩歌と季節観の形成
近代	日本文学演習ⅠA・ⅠB	上田 渡	月	6	近・現代の「幻想小説」のテキスト分析（語り、語り手を中心に）
	日本文学演習ⅠA・ⅠB	石川 則夫	月	4	近現代文学の物語行為についての考察
日本語学演習ⅠA・ⅠB		吉田 永弘	火	4	上代日本語の研究
日本語学演習ⅠA・ⅠB		鶴橋 俊宏	金	3	江戸語の研究
日本語学演習ⅠA・ⅠB		三井 はるみ	木	3	方言の研究
日本語学演習ⅠA・ⅠB		中山 陽介	金	4	『古今和歌集』古写本の読解
伝承文学演習ⅠA・ⅠB		伊藤 龍平	火	6	伝承文学研究の基礎的な方法を身につける。
伝承文学演習ⅠA・ⅠB		内藤 浩誉	木	3	日本の伝説の研究史・研究方法を学ぶ
伝承文学演習ⅠA・ⅠB		佐伯 和香子	金	5	昔話の研究史および研究方法を学ぶ
伝承文学演習ⅠA・ⅠB		小堀 光夫	土	2	昔話・伝説の研究史と研究法を学ぶ。

日本文学演習 I A・I B

【科目名】日本文学演習 I A・I B	【曜日】木曜
	【時限】4限
【教員名】土佐 秀里	
【テーマ】万葉びとの恋	
<p>(演習内容) この演習では『万葉集』を読んでゆきます。読むのはみなさん一人一人です。私が読み方を伝授するのではなく、みなさんが自分の頭を使っていたかなくてはなりません。一首一首の歌を細かく読むことが授業の内容であり、授業の目的です。細かく読むというのは、一語一語の意味を考えながら読むということです。ひとつの言葉の意味というものは、そう単純に決められるものではありません。辞書に書いてある意味が正しいとは限りません。この授業では、相聞を中心に恋情を詠む歌を考察していきますが、肝腎なことは、「どのような状況にあって、どのような気持ちでいるか」を想像することです。その答えはどこにも書いてありません。すべてはみなさんの「想像力」という力にかかっています。その力が試される演習です。万葉集についての特別な知識はなくても問題ありませんが、高校で学習した古典文法の知識は自明の前提になりますので、それをマスターした上で受講していただきたいと思います。</p> <p>(評価方法) ①最初の指示を守って、指定された文献を引用しているか。②一定以上の分量の資料を作成しているか。③自分なりの語釈、自分なりの解釈、自分なりの考察が出来ているか。④他人の説の無断盗用はしていないか。⑤指示待ちではなく、主体的に古典文学を研究しようとしているか。以上五点の観点から、演習資料・発表内容・質疑応答を総合的に評価する。発表をしなかった者は0点となり、代替措置はないので注意すること。</p>	

【科目名】日本文学演習 I A・I B	【曜日】木曜
	【時限】3限
【教員名】谷口 雅博	
【テーマ】『古事記』の神話を読む	
<p>(演習内容) 『古事記』上巻に記された神話を対象とし、学生の発表を中心に据えて授業を行う。本文の的確な読みを検討した上で、古代的な論理・信仰・習俗などを踏まえつつ、神話成立の背景や各神話の持つ意味（本来の意味や作品内部における意味）を考え、新たな解釈を試みていく。</p> <p>各自二回の発表を行う。一回目は写本・テキスト・注釈書類の調査を通して本文批判の徹底、訓読・語釈の検討を行う。二回目は他の神話テキストとの比較、索引類を使っての用例調査、先行研究の確認等を通して、神話内容について様々な角度から検討を加え、独自の見解を導き出すことを目標とする。レポートの書き方を身につけるため、最終的には二回目の発表内容をレポートにまとめてもらうことになる。</p>	
(評価方法) 発表資料・発表内容・質疑応答	50%
学年末レポート	50%

日本文学演習 I A・I B

【科目名】 日本文学演習 I A・I B	【曜日】 火曜
	【時限】 1 限
【教員名】 斎藤 菜穂子	
【テーマ】 『蜻蛉日記』を読むー和歌と散文との関係を中心にー	
<p>(演習内容) 女流日記文学の嚆矢である『蜻蛉日記』を冒頭から順に読み進める。詠歌に自負するところのあった道綱母によってどのように散文作品が形成されて行ったのか、その道筋を追い、女流文学の成り立ちの動機や意義を考察する。藤原兼家の求婚から結婚成立、新婚期そして夫婦の危機と、和歌を軸にして描かれており、詠歌の変化をも捉えることになる。授業はひとりずつの発表形式(それぞれ1回か2回)で行い、担当学生の発表に続いて議論となる。主体的な発言のない場合は指名する。毎時間何か発言することになると考えてのぞんでほしい。なお、発表者は、担当時の2週間前にテーマの設定が妥当なものかどうか教員のもとに相談に来たうえで、担当時の前週に発表資料を配布すること。全員それを読んでの予習が必要である。</p> <p>古典文学を専攻する学生でなくても、説明するので心配はない。レポートのテーマ設定や書き方についても指導する。</p> <p>(評価方法) 出席回数やリアクションペーパーの提出状況、資料・発表の質や熱意、質疑応答における演習への参加度、前期末の中間報告書と年度末のレポートをもって、総合的に評価する。</p>	

【科目名】 日本文学演習 I A・I B	【曜日】 金曜
	【時限】 5 限
【教員名】 竹内 正彦	
【テーマ】 『源氏物語』「若紫」巻を読む	
<p>(演習内容) 『源氏物語』「若紫」巻の影印本(写本)を輪読する。発表担当者が、担当する範囲について、翻字をしたうえで、調査、考察したことを資料としてまとめて発表し、質疑に答えつつ議論を深めることによって、本文に対する考え方、注釈書の扱い方、文献調査の方法、読解の視点等を学び、日本古典文学についての基本的な研究方法を修得する。発表担当者が責任を持って発表するのはもちろんであるが、他の受講者の積極的な発言も求める。発表はI A/I Bそれぞれ1回を予定。各学期末にレポートを課す。</p> <p>(評価方法) 発表資料・発表内容60% レポート20% 授業への取り組み状況20%</p>	

日本文学演習 I A・I B

【科目名】日本文学演習 I A・I B	【曜日】火曜
	【時限】3 限
【教員名】野中 哲照	
【テーマ】『平家物語』の鹿の谷事件譚（たん）を読む	
<p>（演習内容）2023 年度の「日本文学概説Ⅱ」（後期）の野中担当回で、俊寛の物語を読みました。日本史の教科書にも載る鹿ヶ谷（ししがたに）陰謀事件（1177 年）の一部です。『平家物語』には打倒平家の動きが 4 回語られています、その第 1 弾が鹿の谷（ししのたに）事件です。それを、この演習で読んでいきます。</p> <p>『平家物語』は異本間の差異が大きいことで知られています。異本を比べ読みすることで、たとえば俊寛像が古態本と後出本とでどのように変容していったのかが、見えてきます。</p> <p>表現の微細な差異から多くの情報を得て、緻密な想像力と豊かな感受性を鍛えてゆきます。対読者意識のバイアスを受けて作られる物語分析の理論も学ぶこととなりますので、将来、映画・ドラマ制作、小説・脚本の執筆、演出、役者を目指す人にも役立ちます。また、教師を目指す人には、教材研究を深める力を養うことにもなります。</p> <p>（評価方法）平常点（出席点、授業時の質疑応答や研究発表） 定期試験は行いません。</p>	

【科目名】日本文学演習 I A・I B	【曜日】木曜
	【時限】3 限
【教員名】岩崎 雅彦	
【テーマ】御伽草子の研究	
<p>（演習内容）御伽草子『自剃弁慶（じぞりべんけい）』を扱う。御伽草子は室町時代から江戸時代前期にかけて製作された短篇の絵入りの読み物の総称である。</p> <p>『自剃弁慶』は武蔵坊弁慶を主人公とする武家物の御伽草子で、弁慶の生い立ちから牛若（源義経）との出会いまでを描く。</p> <p>授業は個人発表の形で、本文の校訂・語釈・現代語訳を行う。また、以上とは別に影印本を用いて写本を読解する能力を習得する。</p> <p>（評価方法）各回の発表の内容、および期末レポートで評価する。欠席は原則として認めない。</p>	

【科目名】日本文学演習 I A・I B	【曜日】金曜
	【時限】4 限
【教員名】清登 典子	
【テーマ】古典詩歌と季節観の形成	
<p>（演習内容）発表担当者各自が担当する季節の語について、前期は和歌、後期は俳諧という日本詩歌の中で、どのような美意識を形成してきたかについて調べて発表する。また、和歌表現と俳諧表現との違いについての理解を深める。担当者の発表と、受講生の質疑により授業を進める。また受講生は発表担当者の発表内容についての評価シートの作成を行う。</p> <p>（評価方法）レポート 40%、発表内容 30%、授業の取り組み状況(質疑および授業評価シートの作成状況)30%</p>	

日本文学演習 I A・I B

【科目名】 日本文学演習 I A・I B	【曜日】 月曜
	【時限】 6 限
【教員名】 上田 渡	
【テーマ】 近・現代の「幻想小説」のテキスト分析(語り、語り手を中心に)	
<p>(演習内容) 文学テキストの研究、分析をする場合の基本的な考え方、理論、技術について紹介、解説をする。なぜこの時期の幻想文学を対象テキストにするのか、その理由は主として二つある。第一に分析対象として比較的扱いやすいということ、第二には、近代文学研究上最も重要な概念のひとつである「語り・語り手」について受講者が理解しやすいだろうことにある。さらにいえば、幻想文学は短編がほとんどで読みやすく、おもしろい。授業は発表形式で行い、毎回担当学生の発表、討論という形で行う。発言のない場合は指名する。取り扱う作品はある程度こちらで指定する。その中から選ぶことを原則とする。昨年度の授業では泉鏡花、谷崎潤一郎、内田百閒、江戸川乱歩、夢野久作などの作家のものをとりあげた。</p> <p>(評価方法) 前期では課題テキストの分析を試みるレポート、後期は発表担当のテキストの分析・研究レポート。どちらもレポート 70%、発表・質疑など 30%</p>	

【科目名】 日本文学演習 I A・I B	【曜日】 月曜
	【時限】 4 限
【教員名】 石川 則夫	
【テーマ】 近現代文学の物語行為についての考察	
<p>(演習内容) A 前期は、1人称回想体の〈語り〉について考察し、その機能分析の実践を演習として行う。演習の対象は、夏目漱石『こころ』の「上・先生と私」をグループ発表していく予定。合わせて『こころ』の先行研究論文の代表的なものいくつかを精読して、研究論文の書式、構成の仕方、論点把握の方法について具体的に検討し、論文読解力の養成も行う。</p> <p>B 後期は、3人称小説の〈語り〉について考察する。対象作品については、前期中に候補作品を10作品ほど提案し、夏期休暇中に読解した上で後期の初回に5～6作品を希望者の多い順に選択する。先行論文の批判検討発表と作品本論発表を組み合わせるグループ発表していく予定。</p> <p>(評価方法) A・Bそれぞれ、グループ発表30%、質疑応答20%、レポート50%。</p>	

日本語学演習 I A・I B

【科目名】 日本語学演習 I A・I B	【曜日】 火曜
	【時限】 4 限
【教員名】 吉田 永弘	
【テーマ】 上代日本語の研究	
<p>(演習内容) この演習では、万葉集を読み進めながら、日本語学的な調査と分析の方法を身につけることを目的とする。</p> <p>はじめに、担当教員が上代日本語の文字・音韻・文法について簡単に説明した後、一首ずつ割り当てるので、自らの担当歌について、どう読めばよいのか、どう訳せばよいのか、調べて考えて資料にまとめて発表する。発表を経てさらに問題を追究し、レポートにまとめる。</p> <p>以上の作業を通して、上代日本語の理解を深めつつ、日本語学の研究法を学ぶ。あわせて、発表する力・レポートを作成する力を養う。</p>	
(評価方法)	

【科目名】 日本語学演習 I A・I B	【曜日】 金曜
	【時限】 3 限
【教員名】 鶴橋 俊宏	
【テーマ】 江戸語の研究	
<p>(演習内容) 近世後期戯作資料をもとに江戸の口頭語の実態を観察する。</p> <p>テキストの内容を解釈し、その過程で文法・語彙・音韻などの観点から自らテーマを設定し、調査・分析を行いその結果を発表する。発表での質疑をもとに問題点を掘り下げレポートにする。</p>	
(評価方法) 発表とレポート	
授業への積極性	

【科目名】 日本語学演習 I A・I B	【曜日】 木曜
	【時限】 3 限
【教員名】 三井 はるみ	
【テーマ】 方言の研究	
<p>(演習内容) 日本語の地域的バリエーションである「方言」について、その内容と研究法を学ぶ。前期は、基礎的な知識を身につけるためにテキストを講読する。受講者が各自の担当章について報告し、質疑・応答を行う。テキストとして、井上史雄・木部暢子(2016)『はじめて学ぶ方言学』(ミネルヴァ書房)を使用する。後期は、各地の方言を録音して書き起こした、録音文字化資料を取り上げる。各自の担当地点について、記述書や方言辞典、方言地図、日本語諸方言コーパスなどを参照しながら、録音された方言の、音声・アクセント・イントネーション・方言特有語・特有用法・文法(助詞、助動詞、活用等)・表現などの特徴について、調べて発表する。</p>	
(評価方法) 発表内容とレポートによって評価する。発表は前後期各1回担当し、それぞれについてレポートを提出する。	

日本語学演習 I A・I B

【科目名】 日本語学演習 I A・I B	【曜日】 金曜 【時限】 4 限
【教員名】 中山 陽介	
【テーマ】 『古今和歌集』 古写本の読解	
<p>(演習内容) 平安時代に書写された『古今和歌集』の古写本を題材に、古文献の文字や内容を読解する力をつける。博物館などで展示される古典籍や書跡を、内容まで及んで鑑賞できるようになることを目標に据えて、以下のことを学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none">・崩し字を憶え、字書の引き方を身につけて、文字を正確に読めるようになる。・日本語の辞書や文法書の基本的な使い方を身につけて、文献の内容について日本語学の知識による基礎的な解釈を組み立てられるようになる。・諸本や注釈書を参照し比較する方法を学び、問題点を見つけ出す洞察力を養う。・古典籍や和歌に親しみ、日本の言語文化・文字文化の伝統を体感的に理解する。 <p>具体的には、受講者ごとに割り振られた担当の歌につき、文字の読みを示し、文法・語彙などの語学的な読解に基づく歌の解釈を発表する。受講者どうしの議論の上、文法・語彙・表記などの問題点を見つけ出し、結果をレポートにまとめる。</p>	
(評価方法) 発表 50%・レポート 50%	

伝承文学演習 I A・I B

【科目名】 伝承文学演習 I A・I B	【曜日】 火曜
	【時限】 6 限
【教員名】 伊藤 龍平	
【テーマ】 伝承文学研究の基礎的な方法を身につける。	
<p>(演習内容) 資料の扱い方や先行研究の収集技術、調査方法の習得を目的とする。前期は伝説を、後期は昔話を扱う。発表は、前期 (I A)・後期 (I B) 一回ずつ。学期末に、各学期の授業 (自身やクラスメイトの発表、質疑応答) を振り返ったレポートを提出する。</p>	
<p>【前期・I A】</p> <p>受講生の故郷の伝説について調べ、問いを見つけて発表し、質疑応答を行なう。</p> <p>「故郷」は必ずしも出身地に限らず、発表者が住んだことがある土地ならばどこでもいいし、隣接する自治体でもいい。また、地域に結びついていれば世間話を対象にしてもかまわない。発表は以下の六点を基本とし、各自、アレンジをすること—①伝説の紹介、②当該伝説に関わる事物の紹介、③資料内で用いられている語の語釈、④伝説の現代における展開、⑤関連論文の提示、⑥発表者の見解。</p>	
<p>【後期・I B】</p> <p>受講生が関心を持っている昔話の話型、もしくはモチーフを一つ選び、問いを見つけて発表し、質疑応答を行なう。資料収集には『日本昔話大成』、及び『日本昔話通観』を活用し、また、事典・辞典類にも目を通し、日本の昔話を相対的に捉えるようにする。発表は以下の四点を基本とし、各自、アレンジをすること—①話型もしくはモチーフの紹介、②語釈、③関連論文の提示、④発表者の見解。</p>	
<p>(評価方法) 発表.....50% 司会.....10%</p> <p>質疑応答.....30% 学期末レポート.....10%</p>	

【科目名】 伝承文学演習 I A・I B	【曜日】 木曜
	【時限】 3 限
【教員名】 内藤 浩誉	
【テーマ】 日本の伝説の研究史・研究方法を学ぶ	
<p>(演習内容) 伝説を中心とした伝承文学の研究手法 (資料収集・調査方法や比較・分析など) について、理解と実践を 深め、自身で研究論文を作成できることを目指す。前後期の最初の 5 回ほどは主に講師による具体的説明 (講義形式) を行い、それを踏まえて、毎回担当者が 自身で作成したレジュメをもとに発表を行う。なお、発表は受講生全員が実施するものとする。</p> <p>定員 : 20 名</p>	
<p>(評価方法) 前・後期、各一回ずつの発表内容、学年末のレポート、平常点 (質疑応答などの授業参加、コメントペーパーの提出) で評価する。</p> <p>なお、全体の三分の二以上の出席をもって評価対象とする。</p>	

伝承文学演習 I A・I B

【科目名】 伝承文学演習 I A・I B	【曜日】 金
	【時限】 5
【教員名】 佐伯和香子	
【テーマ】 昔話の研究史および研究方法を学ぶ	
<p>(演習内容)</p> <p>昔話の研究史と研究方法を学ぶことを目的とする。受講生は全員、少なくとも一回は口頭発表を行う。発表者は、異類聳譚、異類女房譚、誕生譚、運命と致富譚、隣の爺譚、継子譚、異郷譚、逃竄譚などの本格昔話から一つを選び、資料集を用いてその分布を調べ、地域差や歴史的な展開を明らかにする。研究発表のための資料集め、レジュメ作りには相当の時間がかかることを覚悟してほしい。また、近代以前の文献や外国の昔話との比較なども視野に入れることを目指す。各自が問題意識を持って参加することが重要である。</p>	
<p>(評価方法)</p> <p>口頭発表・質疑応答などの授業参加・期末レポートによって評価する。口頭発表および3分の2以上の出席が期末レポート提出の前提条件となる。また、毎回の発表における討議への積極的な参加が全員に求められる。</p>	

【科目名】 伝承文学演習 I A・I B	【曜日】 土曜
	【時限】 2 限
【教員名】 小堀 光夫	
【テーマ】 昔話・伝説の研究史と研究法を学ぶ。	
<p>(演習内容) 本講座は、昔話・伝説の研究史、昔話・伝説を中心とした伝承文学の分析、比較等の研究法を学ぶ事を目的とする。</p> <p>前期の授業は、本講座担当の小堀が、外部組織の一員として協力した、文化庁「文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業」として秋田県教育庁文化財保護室・秋田大学が製作、管理するホームページ「秋田の昔話・伝説・世間話 口承文芸検索システム」(http://namahage.is.akita-u.ac.jp/monogatari/riyou.php)を利用して授業を進める。</p> <p>受講者は、上記ホームページ「秋田の昔話・伝説・世間話 口承文芸検索システム」を使って、自分が研究したい口承文芸を選択し、前期の口承文芸研究の研究法の授業をふまえた研究発表を行うこととする。</p> <p>後期は、夏期休暇等に、桃太郎、浦島太郎、弘法大師、小野小町、西行等、人物に関する伝説、世間話、昔話から一つテーマを決めて調査、研究し、同じように口頭発表する。</p> <p>前期、後期とも発表内容は、事典や辞書、概説書、ホームページなどの紹介といったものではなく、実際に自分で調べた調査資料に基づき、自身の問題意識や考えを明確に表したものが望ましい。</p>	
<p>(評価方法) 前期、後期の二度の発表と発表資料、授業参加(授業時の質疑等の発言)、授業時の発表をまとめた単位レポート(400字詰原稿用紙10枚以上)によって評価する。</p>	